

韓国環境部プレスリリース 2020年1月7日付

京畿道漣川郡野生いのしし弊死体から ASF ウイルス検出 (野生いのしし 63-64 例目)

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do;jsessionid=ahzflj3XSbO3cCaB98Jkg+kk.mehome1?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1171120&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は1月6日京畿道(キョンギド)漣川郡(ヨンチョンゴン)および坡州市(パジュシ)民間制限線中で発見された2個体の野生いのしし死体でASFウイルスが検出されたと1月7日明らかにした。

漣川郡(ヨンチョンゴン)百鶴面(ペツカンミョン)で発見された死体は農業従事者によって山で発見され、坡州市(パジュシ)長湍面(チャンダンミョン)で発見された死体は国立生物資源館職員によって野生いのししの調査中に山のふもとで発見された。

漣川郡(ヨンチョンゴン)および坡州市(パジュシ)はASF標準的行動指針(SOP)により試料採取後、防疫措置をとった。

国立環境科学院は1月7日死体でASFウイルスを確診と結果を関係機関に通知した。これで漣川(ヨンチョン)では25件、坡州(パジュ)では22件の野生いのししASF確定となり、全国的には64件になった。

国立環境科学院生物安全研究チーム長は"今回の死体は全部民間制限線内2次フェンス内で発見された。この地域では感染した死体がさらに発見されるだろう"と話した。

以上